

生ごみ分別に関する制度設計における令和3年度実績と令和8年度予算の財政比較

事業種目	令和3年度実績（制度設計値）		令和7年度実績想定（制度設計値）			※参考 令和8年度予算			
	A：可燃ごみ（週2）円／年	内訳	B：生ごみ・可燃ごみ（週2・週1）円／年	コストメリット B-A円／年	令和3年度実績との増減理由	C：生ごみ・可燃ごみ（週2・週1）円／年	コストメリット C-A円／年	令和3年度実績との増減理由	
収集費	職員給与費	116,435,488	収集の人件費	132,330,529	15,895,041	収集回数増に伴う職員2人増	129,957,037	13,521,549	収集回数増により職員2人増（25人→27人）
	ごみ収集事業	18,166,192	収集の車両経費、消耗品等	57,963,680	39,797,488	収集回数増に伴うパッカー車両2台増、収集員の消耗品等の増、軽ダンプ車両コースの戸別収集委託費増	41,855,310	23,689,118	収集回数増に伴うパッカー車両2台増（8台→10台）、収集員の消耗品等の増、軽ダンプ車両コースの戸別収集委託費増
	クリーンセンター運営事業	9,543,496	収集の会計年度任用職員	9,543,496	0	現在と変更なし	8,509,903	-1,033,593	会計年度任用職員1人減（6人→5人）
	可燃ごみ搬出事業 ※1	5,658,948	焼却施設の搬出用クレーン点検・修繕・消耗品費	0	-5,658,948	ダンピング方式のサテライトセンターになり、クレーン点検・修繕・消耗品減	0	-5,658,948	事業廃止の為減
歳入	廃棄物資源化・処分手業	222,713,035	可燃ごみ処理（資本費、処理費、10t車両運搬費）	115,480,800	-107,232,235	広域処理による処理単価の減、生ごみ処理による可燃ごみ運搬費の減、ごみ量の減、生ごみ資本費人口割、生ごみ処理費搬入量割	144,295,092	-78,417,943	処理単価減、可燃ごみ運搬費増、ごみ量の減 ※別紙参考資料にて更なる削減見込みあり
	生ごみ資源化処理事業 ※2	0		27,708,505	27,708,505		15,910,000	15,910,000	脱臭装置等消耗品、重機燃料費維持管理費、各種検査委託料等
	クリーンセンター運営事業	0		0	0		15,276,744	15,276,744	生ごみ資源化処理に対する費用として、光熱水費
歳入	生ごみ処理負担金	0		0	0		0	0	逗子市からの資本費、処理費、不適物等処理費分
合計		372,517,159		343,027,010	-29,490,149		355,804,086	-16,713,073	

※1 令和3年度の可燃ごみ搬出事業については、解体工事を見込む前の通常稼働時のクレーン修繕費としたため、平成28年度～平成30年度実績平均で試算

※2 令和7年度想定が生ごみ資源化処理事業費は、生ごみ処理単価（資本費及び処理費）による推計